

事業名	長寿社会振興事業費		
細事業名	長寿やまなし振興事業費補助金	財務コード	706402
担当部課室	福祉保健 部 健康長寿推進 課 地域包括ケア推進 担当 (内線) 3112		

## 事業の概要

実施期間	始期 H3 年度 ~ 終期 年度
実施主体	補助(山梨県社会福祉協議会)
事業の目的	だれ(何)を対象に 高齢者全般 その対象をどのような状態にして スポーツ、文化活動、世代間交流、地域活動等に参加し、健康づくり、生きがいつくりの推進が図られている 結果、何に結びつけるのか 高齢者の笑顔あふれる「健康長寿やまなし」の実現
事業の内容 主にH28年度	<p>補助先:山梨県社会福祉協議会 事業内容: (1)健康づくり事業 ○いきいき山梨ねんりんピック開催事業 補助率:10/10 ・スポーツ交流大会、生きがい情報広場、三世代ふれあい広場、趣味の広場等 ・平成28年9月24日(土)、小瀬スポーツ公園他 ○全国健康福祉祭選手派遣事業 補助率:参加費10/10、その他1/2 ・予選会で優秀な成績を収めた選手、「シルバー作品展」の優秀作品を「全国健康福祉祭(主催:厚生労働省、都道府県等)」へ派遣、出展する。 (2)生きがいつくり事業(いきいき山梨ねんりんピックの一環として開催) ○シルバー作品展 補助率:10/10 ・高齢者の日頃の文化創作活動の成果発表の場として県内各地で作品展を行い、優秀作品を集めた「シルバー作品展」を開催する。 ・平成28年6月2日(木)~6月6日(月)、山梨県立図書館 ○シルバー俳句大会 ・高齢者がはがきで投句した俳句の作品展を行う(シルバー作品展と同時開催) (3)地域活動支援事業(補助率:10/10) ○高齢者リーダー(ことぶきマスター)の活動促進、研修会、高齢者に関する各種情報の提供を行う。</p>
根拠法令等	都道府県明い長寿社会づくり推進機構事業運営要綱(平成元年10月19日厚生省大臣官房老人保健福祉部長通知) 山梨県長寿やまなし振興事業費補助金交付要綱

## 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	27年度		28年度		29年度	30年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	目標値	
活動指標 山梨ねんりんピックスポーツ交流大会参加高齢者(競技者)数 各地域における予選会の参加者は含まない	4,998人	5,050人	4,876人		4,945人	4,945人	目標設定の考え方 実績値の直近3カ年平均
	活動指標達成率(実績値/目標値)		96.6%				データの出典等 いきいき山梨ねんりんピック事業報告
成果指標 ○いきいき山梨ねんりんピック団体数(イベントコーナー出展団体等) ○シルバー作品展全出展数(予選会含む) ○ことぶきマスター活動実人数	65	67	70		67	67	目標設定の考え方 実績値の直近3カ年平均
	1,820点	1,656点	1,803点		1,767点	1,767点	データの出典等
	32	36	35		36	36	いきいき山梨ねんりんピック事業報告
	成果指標達成率(実績値/目標値)						成果指標によらない成果
決算額又は予算額(千円)うち一財額	20,367 12,103		19,584 10,202		22,123 22,123	22,123 22,123	いきいき山梨ねんりんピックの一環として実施しているスポーツ交流大会や作品展等は高齢者の普段の練習や創作活動に結びついており、また、本大会には各地域で予選会も行われるため、活動の広がりがある。 ・ねんりんピックは世代間交流イベントでもあり、幅広い県民交流の機会になっている。
所要時間(直接分)	73 時間		73 時間		73 時間	73 時間	
所要時間(間接分)	時間		時間		時間	時間	
所要時間計	73 時間		73 時間		73 時間	73 時間	
人件費コスト 単位:千円(@2,145円×所要時間)	149		149		149	149	

## これまでの事業の見直し・改善状況

H24行政評価による見直しの方向 より多くの高齢者の参加が得られるよう、健康づくり・生きがいつくりの楽しさや充実感等について、県ホームページや県社協、老人クラブ等の広報媒体を活用し、高齢者に対する情報発信を強化していく。いきいき山梨ねんりんピックについては、より参加者主体の運営とするとともに、世代間の交流を一層促進するため、高齢者以外の世代への情報発信の強化や、世代間交流に資する内容を盛り込む。ことぶきマスターの一層の活動促進を図るため、ことぶきマスターの技能発表の場を拡充する。は予算対応あり(ねんりんピックにおけるマスター活動発表テントの拡張)
---

活動量と成果の判断(平成28年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定		活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H28年度 活動指標 の達成率	活動量に係る 一次評価	
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)  
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定		成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H28年度 成果指標 の達成率	成果に係る 一次評価	いいき山梨ねんりんピックの参加団体は目標67団体に対して70団体、シルバー作品展全出展数は目標1,656点に対して1,803点、ことぶきマスター活動人数は目標36人に対して35人であり、意図した成果を上げている。 成果指標によらない成果としては、いいき山梨ねんりんピックの一環として実施しているスポーツ交流大会や作品展等は高齢者の普段の練習や創作活動に結びついており、また、本大会前には各地域で予選会も行われているため、活動の広がりがある。 また、いいき山梨ねんりんピックは世代間交流のイベントでもあり、幅広い県民交流の機会になっている。 県が認定し、人材バンクに登録している「ことぶきマスター」については、自分の技能や知識を活かし、地域や福祉施設のイベント等で活動することで、高齢者の社会参加促進に繋がっている。
	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	本県の高齢化率は年々上昇し、平成29年4月1日時点で28.8%となり、3.5人に一人が65歳以上の高齢者となっている。また高齢者夫婦世帯や在宅ひとり暮らし高齢者も増加している。このような中、高齢者が地域において健康で生きがいを持って社会参加できるような環境づくりや、高齢者がサービスの受け手にとどまらず、自身の経験や知識を活かし積極的に地域活動を続けていけるような取り組みは、介護予防の観点からも今後ますます重要になってくる。 近年、定年延長や趣味の多様化などにより高齢者の考え方や生活スタイルは様々であり、単にスポーツ大会や美術展への参加者を増やすことだけでなく、いいき山梨ねんりんピックやことぶきマスターの活動を通じ、地域活性化の取り組みにも資するよう内容の改善を図っていく必要がある。	b

・「以外の判断項目」の欄

a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託  
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成30年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること  
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること

# 自主点検シート(事業の内容及び所要時間)に関する附属資料

様式2

所属名:健康長寿推進課

細事業名:長寿やまなし振興事業費補助金

調書番号:4

事業の内容を細分化した業務名	具体的な業務プロセス(手順)	業務の時期(フロー)	H28 所要 時間 (h)	H29 所要 時間 (h)A	H30 所要 時間 (h)B	縮減等 B - A	具体的業務の 見直しの内容	見直しに至った理由等 (又は見直しなしの理由等)
1 補助金交付関係業務	交付決定、支払	4月	8	8	8	0	なし	【今回見直しなし】 業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間となっており、これ以上短縮の余地がない。
	額の確定、精算	翌年4月	8	8	8	0		
						0		
						0		
						0		
(小計)			16	16	16	0		
2 山梨県社会福祉協議会との打合せ、事前準備	いきいき山梨ねんりんピック	6月	20	20	20	0	なし	【今回見直しなし】 業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間となっており、これ以上短縮の余地がない。
	全国健康福祉祭(壮行式、帰県報告会)	7月	10	10	10	0		
	シルバー作品展・シルバー俳句大会	5月	3	3	3	0		
	ことぶきマスター(認定証交付)	5月	3	3	3	0		
						0		
(小計)			36	36	36	0		
3 イベント等の当日対応	いきいき山梨ねんりんピック	9月	8	8	8	0	なし	【今回見直しなし】 業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間となっており、これ以上短縮の余地がない。
	全国健康福祉祭(壮行式、帰県報告会)	8、10月	8	8	8	0		
	シルバー作品展・シルバー俳句大会	6月	2	2	2	0		
	ことぶきマスター(認定証交付)	2月	3	3	3	0		
						0		
(小計)			21	21	21	0		
所要時間(計)			73	73	73	0		

(留意事項)

- 1 事業を細分化した業務名は、事務事業を構成する業務ごとに細分化し、その業務名を記載すること。
- 2 具体的な業務プロセス(手順)は、できる限り多くのプロセスを記載すること。
- 3 業務の時期は、業務のフローがわかるように具体的な業務プロセスごとに記載すること。(毎月、四半期ごとの業務等は、その1サイクルの期間を記載すること。)
- 4 各年度の所要時間(計)は、事務事業自主点検シートの「事業の目標、実施状況等」の「所要時間計」と一致すること。
- 5 具体的業務の見直しの内容は、わかりやすく簡潔に記載すること。(県民から見て分かりやすい表現とすること。)なお、見直しがない場合は、「なし」と記載すること。
- 6 見直しに至った理由または見直しなしの理由は、詳細に記載すること。(具体的な業務プロセスごと、または細分化した業務ごとに記載すること。)
- 7 適宜、業務内容に合わせ、行を加除して記載すること。(複数ページ可)